

自転車利用者の交通事故の実態(平成30年中)

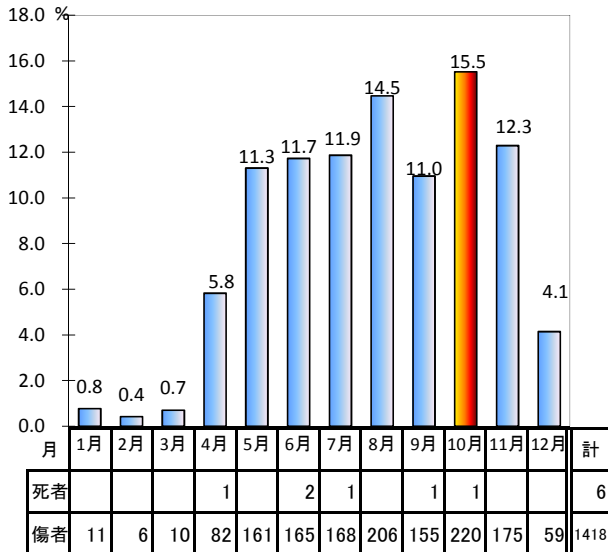
～ 自転車利用中の死傷者 1,424人～

死者 6人(前年比-1人) 傷者1,418人(前年比-35人)[うち重傷者193人・軽傷者1,225人]

- ・ 昨年の自転車利用者の交通事故の実態は、一昨年に比べ死者数、傷者数ともに減少しました。
- ・ 亡くなった方は、60歳以上が5人と最も多くなっています。
- ・ 怪我をした方は、高校生を中心に10歳代が多くなっています。
- ・ 発生は、雪解け時期である4月から急激に増加し、11月まで多くなっています。
- ・ 時間帯では朝・夕の通勤・通学時間帯に多くなっています。
- ・ 交差点での出会い頭事故が多くなっているほか、自転車利用者側の違反も約3割となっています。

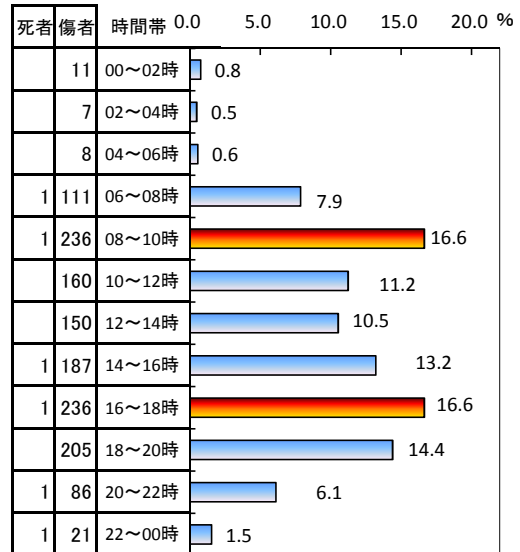
【月別】

4月から死傷者が増加し、10月が最も多い。



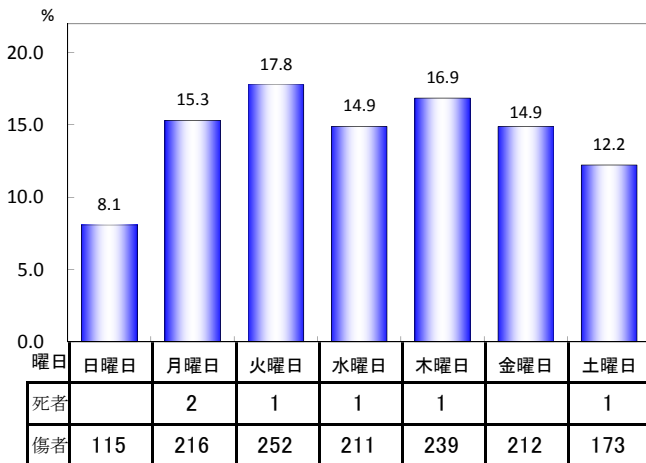
【時間帯】

朝(8～10時)と夕(16～18時)が多い。



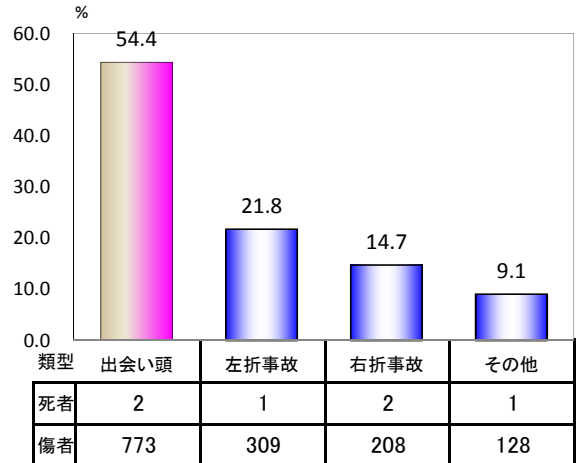
【曜日別】

平日の死傷者が多い。



【事故類型別】(起因車の行動)

出会い頭事故が5割を超える。



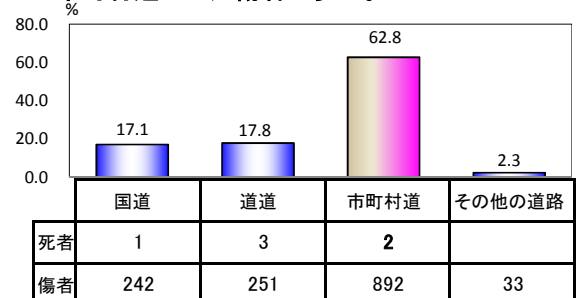
【地形・道路形状別】

市街地交差点で7割を超える。



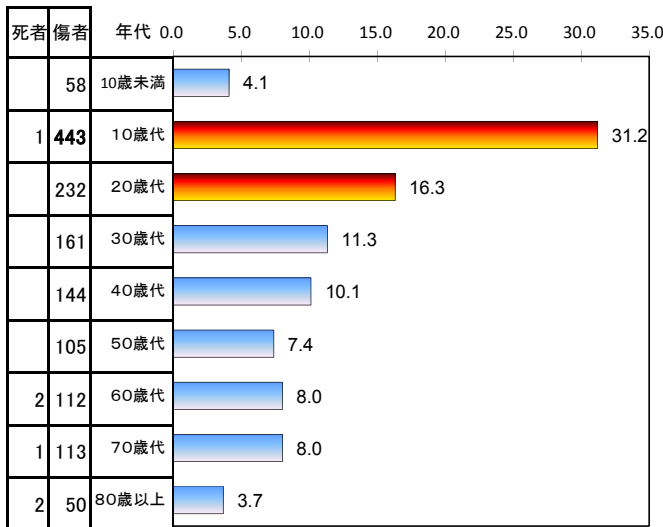
【道路別】

市町村道での死傷者が多い。



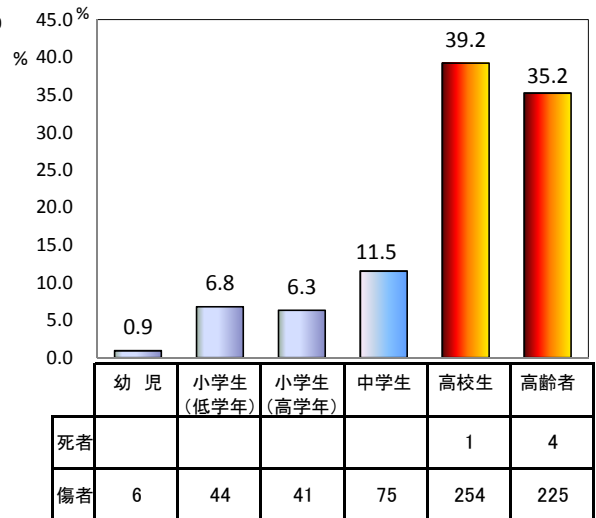
【死傷者の年齢層】

死者は60、80歳代が多い。傷者は10、20歳代が多い。



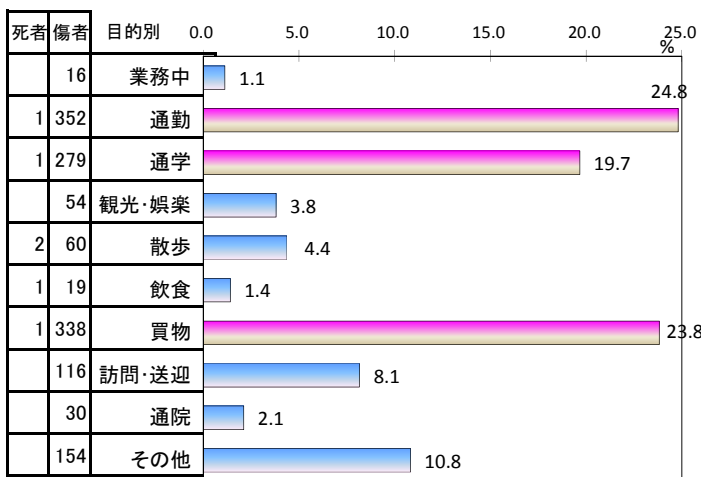
【子供と高齢者の死傷者の割合】

高校生、高齢者(65歳以上)が多い。



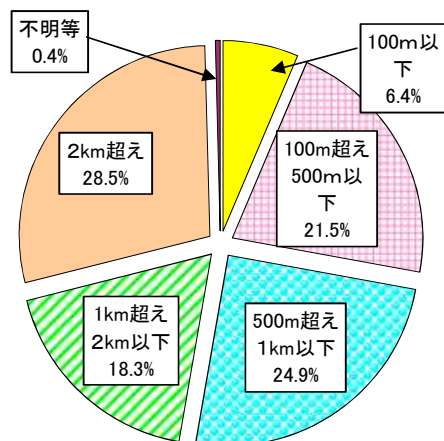
【死傷者の通行目的】

通勤、通学や買物時が多い。



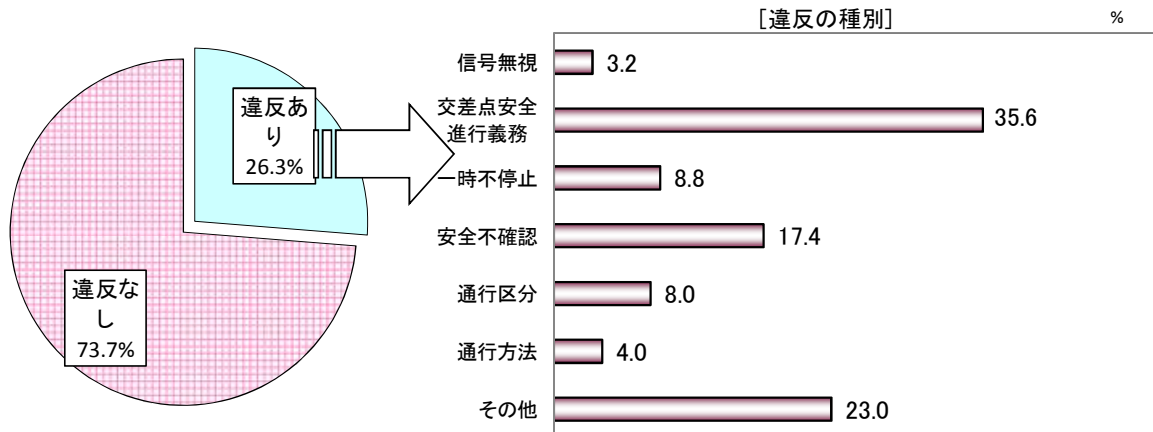
【死傷者の自宅からの距離】

1km以内で5割を超える。



【死傷者の法令違反】

自転車側の約3割に違反があり、特に交差点安全進行義務違反に関わるものが多い。



注～構成率は四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

～自転車運転者講習～ (平成27年6月1日施行)

自転車運転者による酒酔い運転、信号無視、指定場所一時不停止など一定の危険行為を2回以上した者は、「自転車運転者講習」を受けなければなりません。(罰則～受講しなかった者5万円以下の罰金)